

AddRuby Plugin for ChattyInfty3

本ソフトウェアは ChattyInfty3 (AITalk 版・SAPI5 版) (Ver.3.02 以後) の機能拡張のためのプラグインソフトウェアです。本ソフトウェアを追加インストールすることにより、ChattyInfty で編集集中の文書の全ての漢字に自動でルビを振ることが可能になります。

この機能により、「全ルビ」のマルチメディア DAISY コンテンツの製作コストを大幅に軽減することができます。また、特定のルビを残して他のルビを削除することも出来ますので、全ルビと原本通りルビの二通りのマルチメディア DAISY 製作に便利です。

1. 動作条件

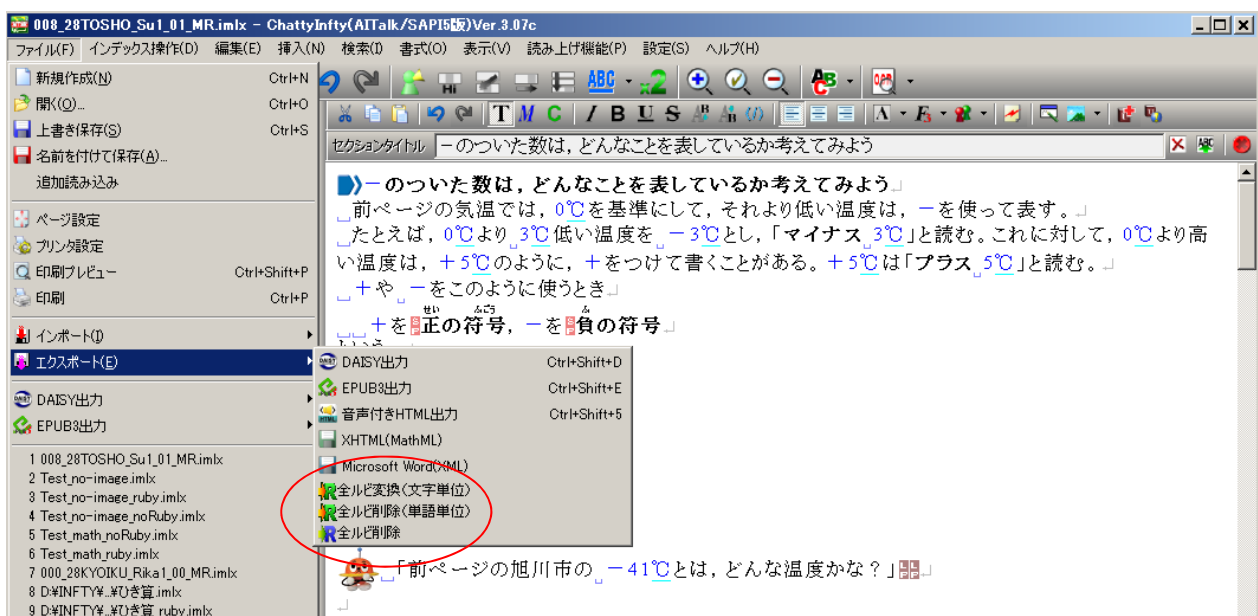
Windows 7, 8,1, 又は Windows10 で動作します。

2. インストール

ChattyInfty3(AITalk 版)と ChattyInfty3(SAPI5 版)用にそれぞれインストーラが用意されていますので、対応するインストーラ AddRubyPlugin117_AITalk_Setup.exe または AddRubyPlugin117_SAPI5_Setup.exe を選んで実行します。インストール先フォルダは必ず ChattyInfty3 と同じフォルダを選んで下さい。例えば 64bit 版の Windows で ChattyInfty3(AITalk)を初期設定のままインストールした場合、

ChattyInfty : C:\Program Files (x86)\AccessNet\ChattyInfty3(AITalk)
というフォルダ構成になります。(SAPI5 版の場合は(AITalk)がありません。)

本プラグインのインストール後、ChattyInfty3(AITalk 版/SAPI5 版) を起動して、「ファイル」メニューから「エクスポート」を選択したときに、下図のように、「全ルビ変換 (文字単位)」「全ルビ変換 (単語単位)」と「全ルビ削除」の項目があれば、インストールは正しく行われています。



3. 使い方

(1) ChattyInfty3 の編集画面で、「ファイル」、「エクスポート」、「全ルビ変換」と選択して実行します。すると、全ての漢字にルビが振られた文書に変換され、ChattyInfty3 の新しい Window が立ち上がり、変換結果が表示されます。生成された全ルビのファイル名は、元のファイルが aaa.imlx の場合、aaa_ruby.imlx となります。

(2) 次に、得られた全ルビの ChattyInfty 文書から、通常通り DAISY エクスポートを実行すれば、全ルビのマルチメディア DAISY コンテンツを生成することが出来ます。

4. 「文字単位のルビ」と「単語単位のルビ」

例えば、「古典」にルビを振る場合、文字単位のルビでは、「古」の上の真ん中に「こ」、「典」の上に「てん」とルビが振られます。それに対して、単語単位のルビでは、「古典」という単語に対して「こてん」というルビがふられますので、ルビの「て」の文字は「古」と「典」の間の真上に位置することになります。どちらが読みやすいかは人によると思いますので、製作者の考えで選んで下さい。

5. ルビの修正

変換結果のルビに誤りがある場合の修正の仕方は2通りあります。

(1) **ChattyInfty の編集機能を使う方法** 個別に一つ一つ修正する方法 (ChattyInfty3 のマニュアルに記載されている方法)

ルビのある漢字の上 (直前) にカーソルがある状態で、CTRL+SPACE+UpKey を一緒に押すと、ルビを修正するダイアログが表示されます。任意の平仮名文字列を指定することが出来ます。ルビ欄を空文字にして閉じると、ルビが消えます。また、ルビのない漢字文字列を版指定して CTRL+SPACE+UpKey を一緒に押すと、指定した文字列に対してルビを付与することが出来ます。

(2) **変換補正用辞書を使う方法** 頻繁に出てくる漢字文字列に対して、間違いをなくするためには、変換補正用辞書に登録することが出来ます。上記の方法で一度全ルビ変換を実行すると、元の imlx ファイルと同じフォルダに「AddRuby 補正辞書.txt」というファイルが出来ます。この補正辞書に漢字を含む単語とそのルビ文字列を指定しておけば、次回以後、その内容が優先されてルビ変換が行われます。

補正辞書への登録方法は、補正辞書の始めの部分に例を添えてコメントで書かれていますので、容易に分かるとと思います。変換する漢字 (漢字仮名交じり文) と読みの仮名文字列の間は、必ず TAB を用いて下さい。必ずしも単語や熟語でなくても、漢字仮名交じりの短文でも登録できます。逆に漢字 1 文字だけの読みの登録は、全体の変換精度に悪影響を与える場合がありますので、そのような場合はできる限り漢字に続く送り仮名等を付けて登録するようにしてください。

登録できる文字数には余り制限はなく、5 万語位までは大丈夫です。

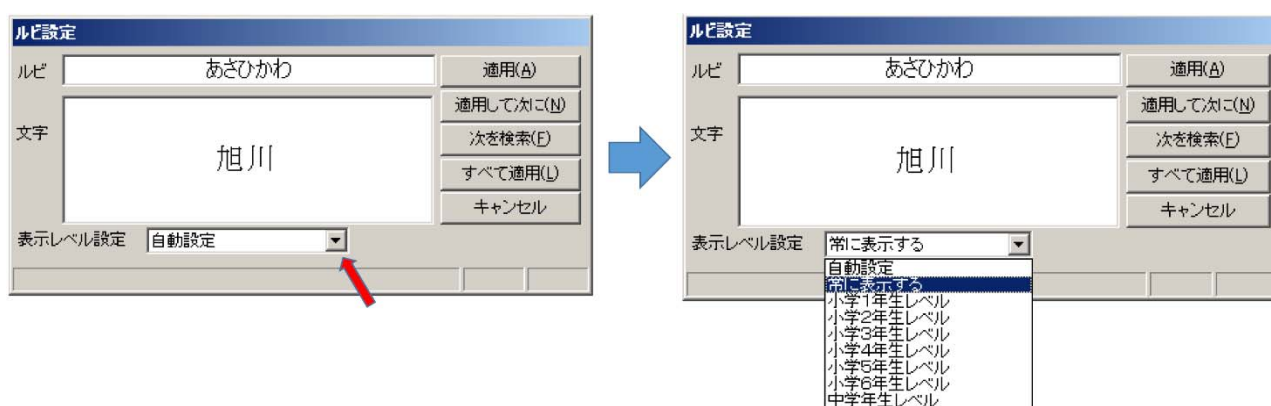
自分なりの補正辞書を作り、対象とする **imlx** ファイルと同じフォルダに置いて全ルビ変換を実行すれば、いつもその内容が反映されます。

6. ルビの削除

ChattyInfty3 の編集画面で、「ファイル」、「エクスポート」、「全ルビ削除」と選択して実行すると、ルビが一斉に削除されます。その際、特定のルビのみ残すことが可能です。

変換後のファイル名は、元のファイル名が **aaa.imlx** の場合は **aaa_noRuby.imlx** になります。（元のファイル名が **aaa_ruby.imlx** の場合も **aaa_noRuby.imlx** となります。）

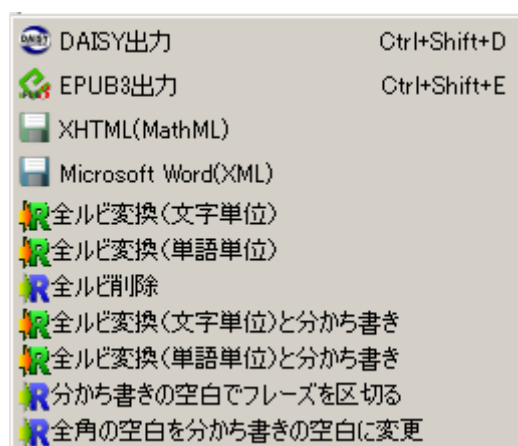
マルチメディア DAISY の教科書・教材製作では、同じ内容で原本通りにルビを振ったものと全ルビの二通りのコンテンツを製作する必要があることがあります。そのような場合には、一旦全ルビで作成し、上述の ChattyInfty の編集機能で原本にルビがあった漢字の上で **CTRL+SPACE+UpKey** を押すと、次のようなルビ修正画面が現れます。



この右側の図のように、「常に表示する」に設定したルビは、全ルビの削除機能を実行しても消されずに残ります。従って、全ルビで ChattyInfty のコンテンツを完成した後で、原本にあるルビについては、「常に表示する」に設定すれば、同一のコンテンツから自動変換（ルビ削除と DAISY 出力）で、全ルビと原本通りに二通りのルビのマルチメディア DAISY 製作が可能になります。

7. 分かち書き機能の使い方

Ver. 1.08 以後の AddRuby には「分かち書き機能」（下図参照）が追加されています。



それぞれの機能については、以下の通りです。

・「**全ルビ変換(文字単位)と分かち書き**」

これは、従来の「全ルビ変換(文字単位)」に、単文節区切りの分かち書き機能を追加したものです。

・「**全ルビ変換(単語単位)と分かち書き**」

これは、従来の「全ルビ変換(単語単位)」に、単文節区切りの分かち書き機能を追加したものです。

・「**分かち書きの空白でフレーズを切る**」

上のどちらかの機能で、分かち書きは、読み上げのハイライト区切り(フレーズ)とは独立です。ChattyInfty の音声設定に従って、区点区切りや、句読点区切りになります。そのため、ヨミの滑らかさは、分かち書きを入れても損なわれることはありません。

他方、分かち書きの区切りで、1語ずつ区切って読んで欲しいという児童・生徒は少なくないようです。そのため、全ての分かち書きの空白にハイライト区切り(フレーズ分割)記号を挿入する機能を追加しました。ChattyInfty の編集画面で CTRL+SHIFT+/ で入力される縦線の区切り記号と同じですので、変換後に ChattyInfty で自由に変更することが出来ます。

・「**全角の空白を分かち書きの空白に変更**」

小学校の1～2年生の教科書では、始めから単文節区切りで、全角の空白が挿入されています。このままだと、読み上げがぶつ切れになるため、これらの全角空白を一括で「分かち書きの空白」に変換する機能です。(文頭の空白はそのままになります。) 連文節でフレーズを切った読み上げを実現するためには、この機能で一旦全角空白を分かち書きの空白にしてから、読みを切りたいところで、フレーズ分割(CTRL+SHIFT+/)をすると、いいと思います。

・「**分かち書きの空白**」についての補足

この空白は、DAISY に変換した際に、通常の DAISY プレイヤーでは、画面上では空白が挿入されますが、読み上げには影響しないため、読みの滑らかさを失わずに、分かち書きを入れることが出来ます。

また、ChattyBooks や ChattyBookExpress では、ツールバーの [W] ボタンで、「分かち書きの空白」を ON/OFF できますので、単語の区切りを見つけることに困難がある子ども達は、「分かち書きの空白」を ON にして練習してから、OFF にして、区切りを見つける練習をすることができます。

以上

問い合わせ先：

NPOサイエンス・アクセシビリティ・ネット事務局

e-mail: support「@」mail.sciaccess.net (「@」は @ で置き換えてください。)

URL: <http://www.sciaccess.net/>